

木藤会長 定例記者会見 冒頭発言要旨

(2026年5月20日(水))

1. 石油連盟会長の再任

本日開催された理事会において、石油連盟会長に再任された。まずは、中東情勢が不透明な状況が続き、各社が引き続き原油の代替調達に努めているなか、政府と連携して国家備蓄原油も活用しながら石油の安定供給に尽力していく。

あわせて、引き続きカーボンニュートラルに向けた取り組みに挑戦しつつ、エネルギーのサプライチェーン強靱化に積極的に取り組んでいく所存である。

2. 経済産業省 資源・燃料分科会

5月15日、経済産業省の資源・燃料分科会が開催され、私も石油連盟会長として出席した。同分科会では、化石燃料のサプライチェーンの強靱化などの検討を深める論点が示された。石油業界としても強靱化に取り組んでいくが、一方で、設備対応あるいは輸送コストの上昇などが見込まれる。これを社会全体でどのように負担していくのか、石油精製業の国際競争力をどう確保していくのかといった観点で丁寧な議論がこれからも必要であると思う。

石油連盟としては、今後の議論に際して「S+3Eの確保」を大前提に、今回の経験を踏まえて積極的かつ建設的に意見を表明し、我が国のエネルギーセキュリティ強化に貢献していく。

3. 原油市況

3月の会見時と同様に、原油価格の見通しを作ることは大変困難な状況にある。

2月28日の米国とイスラエルによるイラン攻撃以降、当初は特にドバイ原油が急騰し、ピーク時は170\$/Bまで上昇した。その後は停戦に向けた一進一退の動きがある中で、4月以降は100\$/Bを中心にプラスマイナス10\$/B程度のレンジ内での動きとなっている。

2020年1月以降で見ると、ロシアのウクライナ侵攻により2022年の年初に130\$/B程度まで一時上昇し、その後は需給バランスによりやや弱含みで推移してきた。2025年は70\$/Bを中心にプラスマイナス10\$/B程度で推移してきたが、ホルムズ海峡の実質封鎖により、現状はそこから30\$/B程度上昇した水準にあるとの認識。

以上